

Japanese A: language and literature – Higher level – Paper 1
Japonais A : langue et littérature – Niveau supérieur – Épreuve 1
Japonés A: lengua y literatura – Nivel superior – Prueba 1

Friday 8 May 2015 (afternoon)
Vendredi 8 mai 2015 (après-midi)
Viernes 8 de mayo de 2015 (tarde)

2 hours / 2 heures / 2 horas

Instructions to candidates

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Question 1 consists of two texts for comparative analysis.
- Question 2 consists of two texts for comparative analysis.
- Choose either question 1 or question 2. Write one comparative textual analysis.
- The maximum mark for this examination paper is **[20 marks]**.

Instructions destinées aux candidats

- N'ouvrez pas cette épreuve avant d'y être autorisé(e).
- La question 1 comporte deux textes pour l'analyse comparative.
- La question 2 comporte deux textes pour l'analyse comparative.
- Choisissez soit la question 1, soit la question 2. Rédigez une analyse comparative de textes.
- Le nombre maximum de points pour cette épreuve d'examen est de **[20 points]**.

Instrucciones para los alumnos

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- En la pregunta 1 hay dos textos para el análisis comparativo.
- En la pregunta 2 hay dos textos para el análisis comparativo.
- Elija la pregunta 1 o la pregunta 2. Escriba un análisis comparativo de los textos.
- La puntuación máxima para esta prueba de examen es **[20 puntos]**.

問題1か問題2の**どちらか**を選び、答えなさい。

1. 次の二つのテキストを分析して、比較対照しなさい。二つのテキストの共通点と相違点、また文脈、読者層、目的、そして形式や文体の特徴の重要性についても言及しなさい。

テキストA

5 うっかり冗談を言うと、「冗談も休み休み言え」と叱しかられることがある。冗談もいいが、そののべつまくなしに言うべきでない、ということだろう。これと同様に、「マジメも休み休み言え」と言えそうな気がする。

ともかくマジメだが、何となく人に嫌われたり、うとんじられたりする人がある。言うこともすることもマジメで、その人の話を聞いていると、「なるほどもっとも至極」というわけで反論の余地がない。もっともだと思いつつ、しかし、心のなかで妙な反撥はんぱつ心が湧わいてきたり、不愉快になったりしてくる。そこで何とか言ってみたいと思うものの、相手の方が何しろマジメで、非の打ちどころがないのだから、それに従うことになる。ただ、そのときに残った心のもやもやが溜たまってくるためもあつてか、そのマジメな人を何となくとんじてしまう。ここでその人が手のつけられないマジメ人間るときは、何だか自分の評判が悪そうだから、ガンバラなくてはと一層マジメになるので、悪循環が生じてしまう。(略)

10 マジメな人は自分の限定した世界のなかでは、絶対にマジメなので、確かにそれ以上のことを考える必要もないし、反省する必要もない。マジメな人の無反省さは、鈍感や傲慢ごうまんにさえ通じるところがある。自分の限定している世界を開いて他と通じること、自分の思いがけない世界が存在するのを認めること、これが怖くて仕方がないので、笑いのない世界に閉じこもる。笑いというものは、常に「開く」ことに通じるものである。

20 「マジメも休み休み言え」というときの「休み」が大切なのである。休んでいる間に人間は何か他のことを考える。休みという余裕が、一本筋の自分の生き方以外に多くの他の筋があることを見せてくれるのである。こんなことを考えてくると、日本人がユーモア感覚に欠けると批判されることと、日本人が休みを取りたがらないということが深く関連していることがわかってくる。「マジメ人間」の日本人が、休みい、いなしにマジメにやるので、国際社会で嫌われものになり勝ちなのである。(略)

テキストB

- 5 クラス委員長は、ぼくと三票の差で、脇山茂わきやましげるに決まった。彼は、前に出て挨拶あいさつをするために立ち上がった瞬間、振り返り、ぼくの顔を誇らしげにちらりと見た。相変わらず仕様のやつない奴やつだなあと、ぼくは思う。彼は、ぼくが忌々いまいましくてたまらないのだ。
- 「えー、皆さんに選出されて、委員長を務めることになった脇山です。まだ慣れないクラスの皆さんが、ぼくを選んでくれたことは、大変光栄で……」
- 光栄も何も。ぼくは、頬杖ほおづえをつきながら、ぼんやりと彼の挨拶を聞いていた。皆、彼の名前が、試験の成績発表で常に一位の場所に載っているから、書いただけだ。クラス委員長が誰になろうと知ったことではないのだ。それなのに、彼は、頬を紅潮させて、喋りまくっている。委員長をやると、進学に有利なのだろうか。あれ？
- 大学受験に内申書なんてあったっけ。(略)
- 10 黒川礼子という女生徒のうなじや唇に心を奪われていると、いつのまにか、ぼくの名が呼ばれた。くすくすと笑い声が洩れる。いつも、そうなのだ。ぼくが、何か行動を起こす段になると、女の子たちの好意的な笑いも周囲に巻き起こる。そして、ぼくは、それが大好きだ。
- 「時田秀美ひでみです。最初に言っとくけど、ぼくは勉強が出来ない」
- 生徒たちは笑い転げた。ぼくは、どうしてうけちゃうのかなあと呟いて頭を掻かいた。
- 15 「おまけに字も下手だ」
- 益々ますます、皆、笑い続けた。
- 「それなのに、どうして、ぼく、書記なんかになっちゃうの」
- 誰もやりたくないからよ、という声が飛んだ。ぼくは、その声の方を指差して言った。
- 「違う。ぼくが人気者だからだ」
- 20 担任の桜井先生が笑いながら、ぼくに言った。
- 「おい、時田、冗談は、そのくらいにしておけ。おまえが、勉強出来ない人気者だったのは、皆、もう知ってる」
- ぼくは、先生を見て肩をすくめた。誰もが笑っていた。もちろん、めでたく委員長になった脇山をのぞいては、彼は、ぼくの言葉を耳に入れるのも嫌いやだというように不愉快な顔で下を向いていた。
- 「桜井先生がそうおっしゃるので、ぼくは席に着きます」
- 25 ぼくは、そう締めくくり、一番後ろの自分の席まで歩いた。途中、脇山が、ぼくに小声で囁ささやいた。
- 「勉強出来ないのを逆手に取るなよな」
- ぼくは、彼を無視して席に着いた。(略)

山田詠美『ぼくは勉強ができない』新潮社(1993)より抜粋

2. 次の二つのテキストを分析して、比較対照しなさい。二つのテキストの共通点と相違点、また文脈、読者層、目的、そして形式や文体の特徴の重要性についても言及しなさい。

テキストC

天声人語

清楚にして繊細、されど芯は強い。そんな日本女性の美称*が大和撫子だが、現実が違ってきたのか、男目線が嫌われてか、めったに聞かれない。代わって時の言葉に躍り出たのが、上下を逆にした撫子日本だ▼今年の流行語大賞が、女子サッカー代表の愛称「なでしこジャパン」に決まった。けなげにして豪快な活躍は

賞に刻むに値する。「日本中に希望と勇気を与えた」と授賞理由にある通り、なでしこの価値は未曾有の災害と表裏の関係にある▼大賞を含む10傑の半分を、震災に関わる言葉が占めた。「3・11」「絆」「帰宅難民」「風評被害」、そしてACジャパンの広告「こだまでしようか」。流行というより、使わざるを得なかった語句も多い▼言葉からたどっても、震災の年だった。ほかにも「がんばろう日本」「想定外」「除染」ときりがない365日の70日目、年の序盤を襲った災いが、ただの卯年を非常の色に染めた▼「今年の××」の発表がにぎやかだ。あるものは震災を意識し、あるものは何事もなかったようにともあれ被災地にとつて、それはまだ回顧の対象ではなく、日常である。仮設の住民は寒さと苦闘し、福島ではコメの出荷自粛が広がる▼絆、きずな。はやりものに終わらせたくない語だ。すべてをなくして、なお残る人の縁。大和撫子と同じく普段使いからは遠かったが、国民の心をつなぐ大役を担う。3・11で再生した言葉は、仮名で3字、漢字が11画。取るに足らない偶然が、今は愛おしい。

朝日新聞 天声人語 2011年12月4日

* 美称：他人をほめていうときの呼び方。美名。

テキストD

実りの多い国の 祭りは楽しい。

「これよりJAたむら大感謝祭をはじめます！」
高らかに開会の宣言が告げられると、
爽やかな秋空に花火が打ち上げられました。
地元の新鮮な農畜産物がずらりと並び、訪れたお客さまは1万人以上。
福島県田村市から、被災地のみんなに元気を届けよう。
お祭りのかけ声通り、活気にあふれる2日間でした。
全国各地で行われるJAの秋のお祭りは、
歌や、お笑いや、郷土の芸能発表や、大抽選会などなど盛りだくさん。
でも、一番の自慢は旬の農畜産物の販売に、
それらを使った郷土料理の数々。
大地の恵みに感謝して、それを地域みんなで分かち合う。
JAのお祭りには、私たち日本人が農耕をはじめたころからの、
楽しみと、喜びが満ちています。
さあ、秋はぜひJAのお祭りへ。お腹も心もいっぱいになりに来てください。

この秋、週末はぜひお近くのJA 農業祭・収穫祭へ。詳しい情報はWEBで掲載中です。

大地がくれる絆を、もっと。 JAグループ